シラバス
【B－６】

平成２２年度研究科横断型教育プログラム（B タイプ）授業科目

担当部局名	人間・環境学研究科			授業の場所	人環棟333演習室		
授業科目名	空間について考える			講義担当者 所属・氏名	人間・環境学研究科　間宮陽介		
対象	修士 博士後期 専門職	コマ数	3コマ	開講 日時	6月16日、6月23日、6月30日 （18:30～20:00）	授業形態	講義

〔授業の概要・目的〕

空間論という未開拓の分野を創造することを目的とする。むろんここにいう空間論とは、社会科学を含む人間科学的なそれである。空間はなんらかの意味での「かたち」をもち、そのかたちは、人間生活の良し悪しを左右する。つまり、空間概念を導入することによって人間科学に規範的観点を導入することが可能になる。講義は都市空間を原イメージとしながら、公共空間や現代社会の諸問題を空間概念を軸に考えていく。具体的には、

1. 現代の諸問題――空間問題としての
2. 空間のトポロジカルな構造
3. 公共空間論

【研究科横断型教育の概要・目的】
空間概念は従来の社会・人間諸科学を横断する基本概念であるにもかかわらず、空間論として正面から論じられることはほとんどない。また都市・建築論の空間概念を人文・社会科学の空間概念と接合する試みもあまりない。空間概念を中心に置く本講義は分野横断的であるのはむろん、文理横断的でもあり、新しい学問領域を切り開く試みでもある。

〔授業計画と内容〕

第1回：6月16日（水）「現代の諸問題――空間問題としての」（間宮陽介）
　バンダリズム（都市の破壊行為）、犯罪、子供の教育問題、さらには政治的無関心や公共性の衰退といった現代社会の諸問題を、空間の「ゆがみ」に起因する病理現象として捉え、空間の「かたち」と人間行動との関係を考察する。アメリカのプルーイット・アイゴー団地がなぜ犯罪とバンダリズムの場と化したか、オープン・スクールはいいことずくめか。こうした事例を空間論の観点から考えてみる。

第2回：6月23日（水）「空間のトポロジカルな構造」（間宮陽介）
　都市空間にしろ、政治空間にしろ、空間というものはのっぺらぼうとしたものではなく、領域性の束から成り立っている。私的領域と公的領域、内部と外部、表と裏、というふうに。領域が複数あれば、領域と領域のインターフェースである境界もあるはずだ。海と陸を仕切る堤防も境界なら、海と陸を繋ぐ砂浜も境界である。領域性、内部と外部、境界などを、ここでは空間のトポロジカルな質と呼び、空間論を空間のトポロジカルな構造という観点から構成してみる。

第3回：6月30日（水）「公共空間論」（間宮陽介）
　空間論の重要なテーマのひとつである公共空間論を論じる。公共空間もトポロジカルな構造をもっているはずだが、ここではさらに、空間を「つくる」ということがどういうことかが問題となる。H・アーレントのポイエーシス＝つくると、エネルゲイア＝つくるとの相違を参考にしながら、つくられる空間としての公共空間を論じ、「市民」を空間をつくる主体として位置づける。

〔履修要件〕

・原則、3コマ全てに出席できる者を受講対象とする。

・受講者を抽選により30名に制限予定。必ず第１回講義に出席すること。

〔成績評価の方法・基準〕

・2単位相当の受講証明書を必要とする場合で、当科目で課題のレポートを作成する場合は、1科目（複数コマ全体）についてのレポートにより評価する。

〔教科書〕

なし（毎回、レジュメとプリントを配付する）

〔参考書等〕
特になし。関連する文献はその都度指示する。
〔その他〕